

大盛況!! BOKUJOBフェア2013

軽種馬育成調教センター 技術普及課 教育係長

齋藤 昭浩

はじめに

昨年で4回目となる“競走馬の牧場で働こう～BOKUJOBフェア2013～”には、一体どれくらいの人達が集まってくれたのでしょうか？

一昨年までは400人以上の方が会場に足を運び、熱心に説明を聞いてくれました。その成果もあり、BTC研修受験者も定員の2倍以上になりました。昨年のBOKUJOBフェアの取組みは興味本位の強いコンテンツ（乗馬体験や場内見学）を外し、本当に牧場就業を考えている若者に焦点をあてて実施されました。また、競馬開催の土日にフェアを行うことになり、調教師や馬主などの著名人の調整が取れずビデオレターでの講演となりましたが、その代わりに新たに交流スペースを設置し、牧場スタッフやBTC研修修了生と牧場での仕事や研修について、気軽に話しや相談ができる場所ができました。

その結果はどうだったのでしょうか？

BOKUJOBフェア2013は3つの会場で行われ、阪神・中京会場は小さめのプレフェアを、東京会場では一昨年同様の規模でのメインフェアを実施しました。ここではBTCブースの説明役を担当した教育係のコメントを加えて、その様子をお伝えします。

阪神競馬場プレフェア（6月15・16日）

参加団体 BTC 他7団体；BTC 訪問者26人（女性8人）：
高校生10人、大学生11人、社会人5人

※一昨年度の参加者は 36人（宝塚記念開催日）

一昨年のフェアは宝塚記念当日に実施し36人という結果でしたが、興味本位の者が多かったことを鑑みると、昨年度の26人という訪問者は、人数的には減少したものの、本格的にBTC研修のことをよく知りたいという熱心な参加者が多い印象でした。

初日は非常に天候が悪く昼前からは激しい雨が降り続くという状況でありましたが、少しでもフェア来場者を獲得するために、各団体スタッフ一丸となり場内で呼びかけを行いました。訪問者の高校生はほとんどが両親の付き添いであったことから具体的な質問が多く、BTC



BOKUJOB 会場入口（牧場マップで紹介）



求人案内（パンフレット配付）



BTC 研修を説明する小守教官

研修への関心度は非常に高かったものであると感じましたし、大学生は目的意識をしっかりと持った方が印象に残りました。

BOKUJOB 阪神プレフェアでは、中高生で進路を検討中の学生さんが多かったのが印象的でした。

来場した学生さんと一緒に父兄の方も BTC ブースに足を運んでいただき、父兄からは団体生活に対する質問や、研修所のある場所の地理的な質問も多くありました。ほとんどの訪問者が、馬の仕事についての認知度は低く、BTC ブース以外にも訪問し、馬業界への知識と理解を深めていたようです。

特に私が驚いたのは、阪神競馬場のフェアだけのために、岡山県、鳥取県、遠方は山口県からの来場者もあり、今回のフェアへの関心の高さを感じました。私に対応した訪問者は、高校でポスターとチラシを見て来たという農業高校生が多かったため、今後普通高校にも広報活動することで、さらに来場者が見込めるのではと、強く感じるフェアでした。

【小守智志】

中京競馬場プレフェア (6月29・30日)

参加団体 BTC 他 6 団体 ; BTC 訪問者 17 人 (女性 4 人) :
高校生 8 人、大学生 2 人、社会人 7 人

中京競馬場での BOKUJOB フェアは初めての開催でした。2日間共に天候に恵まれ、フェア会場が3階の吹き抜けに設置したおかげで、非常に風通しが良くとても良い環境の中、BTC 研修の説明ができました。17人という少人数ではありましたが、丁寧に説明することができました。やや社会人が多かったせいか、慎重な質問(研修を受けるには職種変更による1年間の無収入という現実)が多く感じました。また、中京でも高校生は両親の付き添いが多く熱心に聴いていました。

昨年、初めて中京で行われた BOKUJOB プレフェアでしたが、好天にも恵まれ、盛況のうちに終了しました。BTC のブースには男女問わず多くの方が来訪され、その都度説明に追われました。来訪者の中には、「牧場での仕事とは具体的にどのようなものなのか?」、「素人でも雇ってもらえるのか?」といった素朴な疑問を持って



BTC ブース準備中



進路相談を受ける高垣教官



ハートの勝負服、木之前葵騎手の握手会も!

訪れる方が多く、ほとんどの方が牧場と研修の両ブースで説明を受けていました。

その中で当然出てくるのが、「牧場に勤める前に研修を受けたほうが良いか?」という疑問です。私共は研修機関なので、もちろん就労前に研修を受講することを推薦しておきましたが、このようなご時世ですから、研修でお金と時間を費やすよりも(授業料は掛からないのですが…)できるだけ早く就労して、給料を貰いながらやっていきたいという考えの方も多かったように思います。学校を出てからさらに研修ということに抵抗もあるようですが、将来の宝物となる「技術」を習得する場所ですから、自分への投資として前向きに考えてもらいたいも

のです。何はともあれ、今回のプレフェアが、彼らにとって馬業界へと進むキッカケとなれば幸いです。

【高垣俊哉】

東京競馬場フェア（7月27・28日）

参加団体 BTC 他18団体；BTC 訪問者70名（女性23人）：
中学生5人、高校生26人、大学生21人、社会人18人

東京競馬場でのフェアは昨年度で4回目を迎えました。コンテンツのスリム化（体験乗馬・体験作業・競馬場内ツアーなどの廃止）をはかり、より熱心な若者（高・大学生）に狙いを定めたことで大幅に減少するかと思われましたが、過去のフェア参加者の推移をみても2010年600人、2011年450人、2012年409人、そして2013年は407人（2日間合計）という結果であり、さらに大学生以下が316人であったことから、BOKUJOB事務局の狙い通り大変すばらしいフェアになりました。

そして、新規として取り組んだ「交流スペース」を設置したことで、気軽に牧場の生活などについて質疑応答を行っていたことは、非常に効果的であると感じました。また、積極的に話をする場だけではなく、時田馬具店から提供があった精巧な練習用木馬を使用しての騎乗体験、さらに普段一般の方が触ることの少ないステッキ、手綱、勝負服、ヘルメットを着用しての擬似騎手体験も行ってもらいました。交流スペースでは関東近辺で活躍中のBTC修了生7名に協力していただきました。

研修講演では、BTC代表として山本真維教官および糸数直孝氏（19期卒）が、とても分かりやすい説明と競馬業界の魅力を伝えていたことで、講演終了後のブース訪問者はとても多くなり、説明者としてはとても嬉しい悲鳴となりました。

糸数氏には出展牧場であるヒルサイドステーブルならびに信楽牧場のブース説明者という忙しい役割の中、協力していただいたことに深く感謝いたします。また、協力要請に対し快く承諾いただいた同牧場代表の中内田克二氏にも感謝申し上げます。

7月27日、28日の2日間の日程で『牧場で働こうフェア in 東京競馬場』が開催されました。猛暑の中、はるばる足を運んで下さった方は全部で約70名!! なんと熱心な方が多いことか、そして開催2日間とも参加してくだ



交流スペースでの気軽な相談と騎乗体験（木馬）



研修制度についてのトークショー（右端：山本教官）



角居勝彦調教師からのビデオレター放映



熱気あふれる講演スペース

さった方もいました。

また女性も多く、『競馬業界は女性でもやっていけますか?』という声が聞かれました。こちらとしても「誰でもやっていけますよ!」と言いたところですが、全く体力や筋力が無くてはやっていけませんので(もちろん男女関係なくですが)、現状も踏まえてお話をしました。それでも、キラキラとした目で真剣に聞いて下さったのがとても印象的でした。

このフェアを機に多くの方が競馬業界に(欲を言えばBTC研修に!!)参加してくれることを願いつつ、2日間を終えました。

【山本真維】



16の出展牧場ブースも大盛況!



大勢の参加者が面談待ち (BTC ブース)



熱心に説明する小林課長

まとめ

平成25年度は土日の2日間実施することに加え、東京フェアでの興味本位の強いコンテンツの削除、また新設となる交流スペースの設置により、フェア来場者の数と質を上げる狙いは十分に達成されたと感じました。

東京フェア開催では、出展団体19団体中、最多数の訪問者を獲得したノーザンファーム(71人)に続き70人がBTCブースに来訪したことは、改めてBTC研修の注目度が高いことが示されました。また、阪神・中京・東京の各フェアによるBTCブース訪問者が合計113人であったことに加えて、その内女性が35人という約3分の1を占めていたことにも着目し、BOKUJOBによって周知されたBTC研修を無駄にすることなく、将来牧場の中核となるべき人材を養成していく使命を再認識させられました。

最後になりますが、今回4回目となるBOKUJOBフェア開催に向け、事務局では3回目終了時点から、それぞれの担当部署で案を練り、前回以上の成果を上げられるよう話し合いを設けてきました。事務局の皆様は、本業の傍ら日程調整や出展牧場・開催場所の確保・協力スタッフの確保、これに加えてフェア当日のブースへの来客呼びかけなど、多岐にわたり活動されていることを目の当たりにしました。本当にお疲れ様でした。

私事ですが、フェア終了後に事務局の方とは何度か食事を同席させていただきましたが、話題となるのは決まって「今後における日本の競馬発展を願う強い想い」と「人材確保のための具体策」であったことには、とても感激いたしました。この場をお借りして、競走馬育成協会北川氏を始めとするBOKUJOB関係者の皆様に感謝いたします。併せて、今回交流スペースでの説明役を快く承諾し、協力していただきました研修生OBならびにOGの皆様にも感謝いたします。

- ・萩原 友恵 (10期生) ・榎澤 宏幸 (17期生)
- ・蓮見みなみ (21期生) ・大原 孝夫 (21期生)
- ・高橋 佑誠 (23期生) ・三浦 雅啓 (24期生)
- ・荒井 康之 (30期生)